

ハ前ニカク事が出来ナカツタ子供ノカイト繪ヲ示シマネサセマシタ處ガ今度ハカク事が出来マシタ。

其後六月頃ニナツテ、ボツ／＼自分デ考ヘテカク様ニナリマシタ。

九月ニナリマシタカラ、興味ヲオコサセル方便トシテ厚紙デ、花ヤ、鳥、犬等ノ形ヲキツテ、コレヲ紙ニアテ、輪廓ヲ取ラセマシタ處ガホカノ子供ハオモシロガツテイタシマシタガ、此ノ子供ハマダ十分ニ手先ニ力ガナイタメニオモワシクデキマセン、又、うつし繪ナドモ致シテ見マシタガコレモヨク出来マセンデシタ。

マー一番子供ノカイト畫ヲ見セテカ、ル事がヨロシイ様ニ存ジマスガ、コレモアマリイツマデモマネサセテバカリイテハイカガカト存ジマス。

ソコデコレハ二月ノ初ニ幼児全體ニ、オ父様、オ母様、ト注文シテメ／＼ノオ父様、オ母様ヲオ

モイ斯ベテカ、セマシタ處ガコノ通りカキマシタトニカクコレダケ畫キ得ルヤウニナリマシタガ、タツタ一人ノ子供ニタメシタダケナノデゴザイマスカラ、ドノ子ニモスレバ、カケル様ニナルトハ決シテ申上ゲラレマセン。モット多數ノ子供ニタメシ又モットヨイ方法ヲ考ヘテ見タイト存ジマス。

我が園兒の心に映じた金魚

東京市番町尋常小學校附屬幼稚園

(1)

日頃私は幼児が、物に對して其物の如何いふ點に最も多く興味を感じてゐるか、物をどんな風に見てゐるか、どの様な見方をするか、と云ふ事に就いて私自身興味を持て居りました。即ち幼兒の物に對して興味を感じずる點に於て、物に對する態度

に於て、更に物を見てゐる、眺めてゐる點に於て何か私達成人の世界とは違たものがありはしないか、私共成人には思ひもつかぬ、幼兒特有の見方なり態度なり興味なりがあるのではないか「どうかして眞當に幼兒が見、幼兒が感じてゐるあるがまゝの姿を知りたい」之が小さいこの研究なり調査なりを思ひ就いた動機であります、勿論この調査は之で完成して居りません。ほんの序論的のものであつて更に、實際見た、眺めた金魚に就て觀察すべきでございますが、未だそこまで到て居りません、今日はただ其全半を申上ずして皆様の御批評を仰ぎ御教示を得て今後の研究の資料と致したいと思ひます。

(2) 問 題

扱今此處に、「金魚」と云ふものを考へます、「金魚」と云て私達の心に直ぐ浮ぶ金魚といふ物はどんな姿をして居るでせう、轉じて幼兒の耳に「金

魚」と云ふ言葉を聞かせましたら、どんな色、どんな形をした金魚が其の心に浮ぶでせうか。幼兒に依て考へられた「金魚」その心に映じた金魚それを知らふとするのが此調査の直接目的であります。

(3) 方 法

次にこれを知る方法でございますが、其に對して私は二つの方法をとりました、一は幼兒の畫いた畫に依て、一つは幼兒の言葉の表現に依て即ち會話に依て見たものであります。

(4) 經過に就て

イ、期 日 — 本年七月三日、四日……五日會話に依る發表、
— 同七月九日……畫く事に依る發表、
ロ、場 所 — 於東京市番町尋常小學校附屬幼稚園

ハ、被檢者 — 出席園兒八十四名
— 學齡前 一年以内
— 同 幼兒六一名
— 一年以上 幼兒二十三名

ニ、狀 態 — 各組に依り室の中で「金魚を畫い

て下さい」と云て紙を渡す、クレイヨンは各兒所持する八色を使ふ
2. 室の内外を問はず對談の出来る任意の時、なるべく一人一人に就て各主任の保姆が「金魚つてどんなもの？」と問ひ其答をそのまゝ記しました。

1. の場合には實物の金魚を目に觸れる處に置かず又2 の場合には幼兒の答に暗示を與へるような事はつとめて避けました。

ホ、整理——言葉の發表をした者で九日に缺席の爲畫かなかつた、學齡前一年以内幼兒三名を除いて八十一名の幼兒に就いて結果をまとめました。

(5) 調査の結果

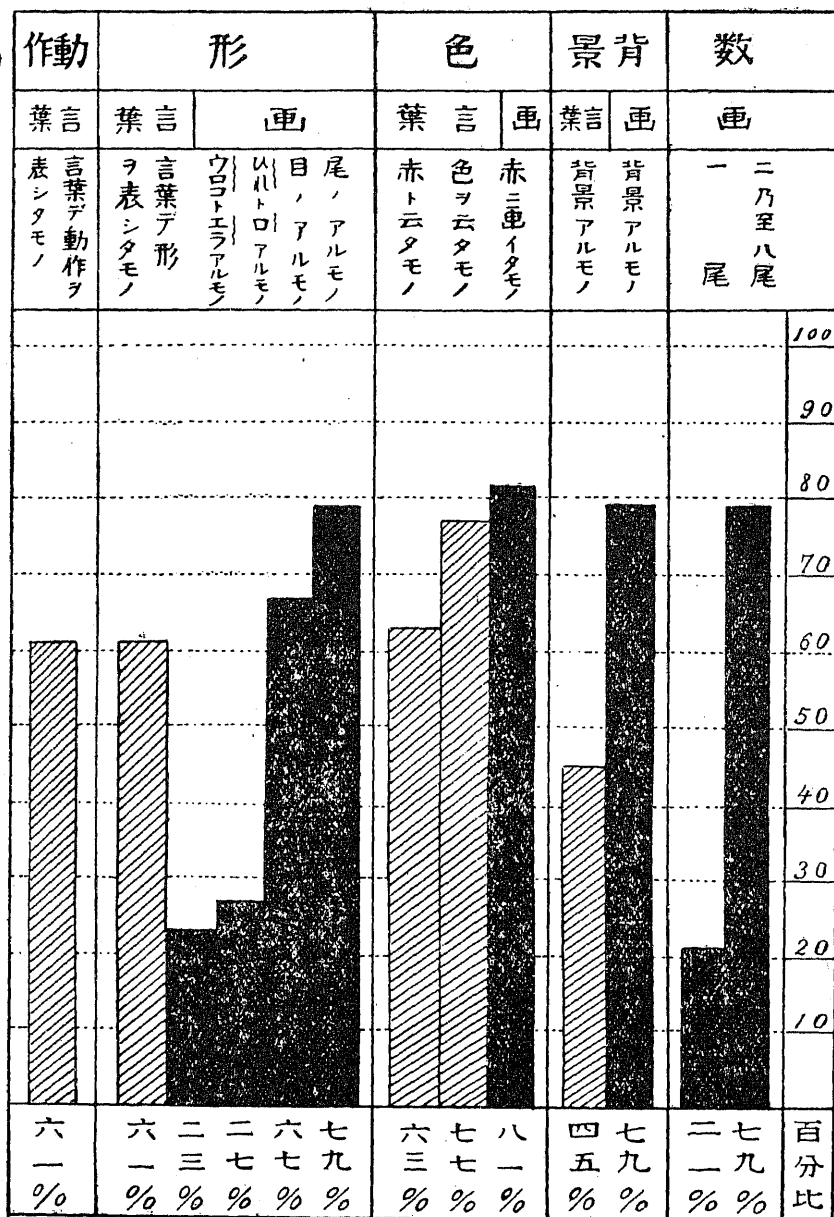
畫に表れたもの、言葉に表れたものの二つを便宜上、數、背景、色、形、動作といふ五項目に分けまし

た、此の中、數は主として畫に表れたものであり又動作は主として言葉に表れたものであります。各百分比をグラフに表しますと次の様になります。

背景の内容には水が最も多く草、木、花、蝶、蜻、めだか、鯉、龜、おたまじやくし、雀、人、舟等で色を畫いた内八一%の赤の他一九%は樺と赤と樺の交りと紫と緑と茶でございます。言葉で動作を表した實例を挙げますと「泳いでる、水をとる、口をあいてる」等であります。この數のところ「一尾畫いたもの」といふのは數としては一尾であつても水或は人の背景を持てゐるので全然金魚一尾のみといふのはありません。なほ言葉の表現の方で、「ひれ」「泳ぐ」といふ事を言ひ表すには、手眞似、身振に依り、「かうやつてゐる」と云て云ひにくいらしい言葉を補てゐました。

(6) 結 語

これらの事實に依て、大體次の三つの事が云ひ



得るかと思ひます。

一、には金魚のみ全然一個を畫いにもは殆どありません、背景なき金魚は必ず二尾、三尾の群であります、一尾ならば池の中に、又は木のあ
る山にかこまれた水に、其處には釣りをする人
見て居る人がゐます、又母金魚と連れ立たり友
達のおたまじやくしや、鯉、めだか等と一處に
遊んで居るので、金魚のみとり出した、抽象的
な分析的なものではなく、或環境の中の一部
分として、具體的な全體的な存在として見てゐる
こと、

二、には金魚それ丈に就て見ましても、「赤いもの」「うごくもの」と云ふ様に大づかみであり
まして、部分的な描寫が少なうございます、身
體の部分でも、目、尾の如き主要な點は多數が
注意して居りますが、ひれの如き、ことにあま
り動かない者ひれは極く少數の脊しか見て居り

ません。

三、には形より多く色の方を見てゐるようであり
ます、言葉で表した方丈見ましても色を云たの
が七七%で形を云たのは六一%であります。畫
に表れた方では、圖表の様に、赤い色を以て金
魚を表したものが八一%で形の整たもの即ち尾
のあるものが七九%で目のあるものが六七%で
あります。

幼兒が私達に與へた表現には多くのよいもの
があるのに、此の研究がまだほんの手はじめで、中
途でのまとめで、至らぬ点が多いと思ひます。ど
うぞ皆様の御教示、御注意を重ねて此處にお願ひ
致します。

一年の先生とお話しての感想

ト 部 た み